

# 2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活支援技術 I (基礎)			学科名	介護福祉学科		講師名	竹川 加奈恵			
時間数	60時間						実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設介護事業所等で実務経験あり			
学年・学期配当	1年次		2年次		前期		後期	通期			
目的・ねらい	「尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者が主体的に生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術・態度を習得すること」を目的とする。										
授業全体の内容の概要	【生活支援技術 I】では、以下の項目を教授する。 ・介護福祉士が行う生活支援の意義と目的、ICFの視点、チームアプローチのあり方を学習する。 ・住まいの役割と機能。生活空間、快適な室内環境のあり方を学習する。 ・自立に向けた移動の一連の流れを理解し、具体的な移動・移乗の介護技術を習得する。 ・福祉用具の重要性、適切な福祉用具を選ぶための視点を学習する。 ・調理、洗濯、裁縫などの具体的な家事支援における介護技術を学習する。										
授業修了時の達成課題 (到達目標)	① ICFの視点をを用いてアセスメントを行い、生活環境を含めた人物像を把握することができる。 ② 基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立の視点や安全・安心の視点から根拠に基づいた介護が実践できる。 ③ 利用者の自立した生活を支援するため、利用者の心身の状況に合わせた介護技術ができる。および、福祉用具を選択・活用することができる。 ④ 適切な介護技術や福祉用具を用いて、高齢者および障害者を安全に支援することができる。										
指導計画	回	形態	内 容								
	1	講義・演習	オリエンテーション (自己紹介、授業の説明) 介護実習室にある物品や配置の確認								
	2	講義	第1章 生活支援の理解	第1節	生活支援の基本的な考え方		テキスト6				
				第2節	生活支援と介護過程		p2~21				
	3	講義	第1章 生活支援の理解	第3節	生活支援とチームアプローチ		テキスト6				
				第1章のまとめ		p2~30					
	4	講義	第5章 自立に向けた家事の介護	第1節	自立した家事とは		テキスト6				
						p216~222					
	5	講義	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節	自立に向けた家事の介護		テキスト6				
						①調理の介護、②洗濯	p223~232				
	6	講義	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節	自立に向けた家事の介護		テキスト6				
						③そうじ・ごみ捨ての介助	p233~235				
						④裁縫					
	7	講義	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節	自立に向けた家事の介護		テキスト6				
						⑤衣類・寝具の衛生管理	p236~246				
						⑥買い物					
8	講義	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節	自立に向けた家事の介護		テキスト6					
			第3節	家事の介護における多職種との連携		p247~261					
9	講義	第5章 自立に向けた家事の介護	第5章のまとめ								
10	講義・演習	第2章 居住環境の整備	第1節	住まいの役割と機能		テキスト6					
			第2節	生活空間		p32~45					
11	講義・演習	第2章 居住環境の整備	第3節	快適な室内環境		テキスト6					
					p46~55						
12	講義・演習	第2章 居住環境の整備	第4節	安全に暮らすための生活環境		テキスト6					
					p56~63						
13	講義・演習	第2章 居住環境の整備	第5節	高齢者・障害者の住まい		テキスト6					
					p64~70						
14	講義・演習	第2章 居住環境の整備	第6節	居住環境の整備における多職種との連携		テキスト6					
					p71~81						
15	講義・演習	第2章 居住環境の整備	第2章のまとめ								
	半期ごとに評価する場合	原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有・無) しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。									
テキスト・参考図書等	新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I										
評価方法	全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する(試験監督はIWAD職員)。ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 筆記試験：80点(100点満点の筆記試験を実施。得点を80%に換算)、態度点：10点、出席点：10点										

形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅰ (基礎)		学科名	介護福祉学科	講師名	竹川 加奈恵
時間数	60時間				実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設介護事業所等で実務経験あり
学年・学期配当	1年次		2年次	前期	後期	通期
目的・ねらい	「尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者が主体的に生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術・態度を習得すること」を目的とする。					
授業全体の内容の概要	【生活支援技術Ⅰ】では、以下の項目を教授する。 ・介護福祉士が行う生活支援の意義と目的、ICFの視点、チームアプローチのあり方を学習する。 ・住まいの役割と機能。生活空間、快適な室内環境のあり方を学習する。 ・自立に向けた移動の一連の流れを理解し、具体的な移動・移乗の介護技術を習得する。 ・福祉用具の重要性、適切な福祉用具を選ぶための視点を学習する。 ・調理、洗濯、裁縫などの具体的な家事支援における介護技術を学習する。					
授業修了時の達成課題(到達目標)	① ICFの視点を用いて、ケアプランを行い、生活環境を具体的に人物像を把握することができる。 ② 基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立の視点や安全・安心の視点から根拠に基づいた介護が実践できる。 ③ 利用者の自立した生活を支援するため、利用者の心身の状況に合わせた介護技術ができる。および、福祉用具を選択・活用することができる。 ④ 適切な介護技術や福祉用具を用いて、高齢者および障害者を安全に支援することができる。					
指導計画	回	形態	内 容			
	16	講義・演習	第3章 自立に向けた移動の介護	第1節 自立した移動とは ベッドメイキング	テキスト6 p82～86 テキスト7 p227～240	
	17	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 ①移動・移乗の基本的理解(ボディメカニクス)	テキスト6 p87～94	
	18	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	②体位変換の介助	テキスト6 p95～119	
	19	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	③安楽な姿勢・体位を保持する介助	テキスト6 p120～131	
	20	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	④車いす介助	テキスト6 p131～168	
	21	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	④車いす介助	テキスト6 p131～168	
	22	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	⑥歩行の介助	テキスト6 p174～186	
	23	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	⑥歩行の介助	テキスト6 p174～186	
	24	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	⑤移動・移乗のための道具・用具 第3節 移動の介護における多職種との連携	テキスト6 p169～173 p187～190	
	25	演習	第4章 福祉用具の意義	第1節 生活支援における福祉用具の重要性 第2節 福祉用具の種類	テキスト6 p194～207	
	26	演習	第4章 福祉用具の意義	第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点	テキスト6 p208～215	
	27	演習	第4章 福祉用具の意義	第4章のまとめ	テキスト6 p194～215	
	28	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	体位変換の介助の復習		
	29	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	車いす介助の復習		
	30	演習	第3章 自立に向けた移動の介護	歩行介助の復習		
	半期ごとに評価する場合	原則、筆記試験の実施 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	筆記試験	有	無	
テキスト・参考図書等	新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ (新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ)					
評価方法	全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する(試験監督はIWAD職員)。 ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 筆記試験：80点(100点満点の筆記試験を実施。得点を80%に換算)、態度点：10点、出席点：10点					

形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名 時間数	生活支援技術Ⅱ (基礎)		学科名 介護福祉学科	講師名	竹川 加奈恵
	90時間			実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設介護事業所等で実務経験あり
学年・学期配当	1年次		2年次	前期	後期 通期
目的・ねらい	「尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者が主体的に生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術・態度を習得すること」を目的とする。				
授業全体の 内容の概要	【生活支援技術Ⅱ】では、以下の項目を教授する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具の重要性、適切な福祉用具を選択するための視点を学習する。</li> <li>応急手当や緊急時の対応を学習する。</li> <li>被災地で活動する際の心構えや災害時の生活支援を学習する。</li> <li>自立した身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄の一連の流れを理解する。</li> <li>介護の基本原則に則った、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄の介護を学習する。</li> <li>利用者の状態に応じた、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄の介助方法を学習する。</li> </ul>				
授業終了時の 達成課題 (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>ICFの視点をを用いてアセスメントを行い、生活環境を含めた人物像を把握することができる。</li> <li>基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立の視点や安全・安心の視点から根拠に基づいた介護が実践できる。</li> <li>利用者の自立した生活を支援するため、利用者の心身の状況に合わせた介護技術ができる。および、福祉用具を選択・活用することができる。</li> <li>適切な介護技術や福祉用具を用いて、高齢者および障害者を安全に支援することができる。</li> <li>自立に向けた介護、または終末期の経過に沿った支援とチームケア・チームアプローチについて、介護福祉士の役割が理解できる。</li> </ol>				
指導 計画	回	形態	内 容		
	16	講義・演習	第1節 自立した入浴・清潔保持とは 第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト7 p104~146	
	17	講義・演習	⑦第3章 自立に向けた入浴・清潔保 持の介護	第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	テキスト7 p108~146
	18	講義・演習		第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 第3節 入浴・清潔の介護における多職種との連携	テキスト7 p104~156
	19	講義・演習		技術の復習	
	20	講義・演習	第1節 自立した排泄とは 第2節 自立に向けた排泄の介護	テキスト7 p158~207	
	21	講義・演習	⑦第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄の介護	テキスト7 p162~207
	22	講義・演習		第2節 自立に向けた排泄の介護 第3節 排泄の介護における多職種との連携	テキスト7 p104~214
	23	講義・演習		技術の復習	
	24	講義・演習	第1節 休息・睡眠とは 第2節 休息・睡眠の介護	テキスト7 p216~244	
	25	講義・演習	⑦第5章 休息・睡眠の介護	第2節 休息・睡眠の介護 第3節 休息・睡眠の介護における多職種との連携	テキスト7 p227~248
	26	講義・演習		技術の復習	
	27	講義・演習	第1節 人生の最終段階の意義と介護の役割 第2節 人生の最終段階における介護	テキスト7 p250~278	
	28	講義・演習	⑦第6章 人生の最終段階における介 護	第2節 人生の最終段階における介護 第3節 人生の最終段階の介護における多職種との連携	テキスト7 p264~284
	29	講義・演習		技術の復習	
30	講義・演習	⑥第3章 自立に向けた移動の介護	生活支援技術の練習	テキスト6 p87~191	
	半期ごと に評価す る場合	原則、筆記試験の実施 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無		
テキスト・参考図書等	新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ ⇒⑥ 新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ ⇒⑦				
評価方法	全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する(試験監督はIWAD職員)。 ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 筆記試験：80点(100点満点の筆記試験を実施。得点を80%に換算)、態度点：10点、 出席点：10点				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅱ (基礎)		学科名	介護福祉学科	講師名	竹川 加奈恵
時間数	90時間				実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設介護事業所等で実務経験あり
学年・学期配当	1年次		2年次	前期	後期	通期
目的・ねらい	「尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者が主体的に生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術・態度を習得すること」を目的とする。					
授業全体の内容の概要	【生活支援技術Ⅱ】では、以下の項目を教授する。 ・福祉用具の重要性、適切な福祉用具を選択するための視点を学習する。 ・応急手当や緊急時の対応を学習する。 ・被災地で活動する際の心構えや災害時の生活支援を学習する。 ・自立した身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄の一連の流れを理解する。 ・介護の基本原則に則った、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄の介護を学習する。 ・利用者の状態に応じた、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄の介助方法を学習する。					
授業修了時の達成課題(到達目標)	① ICFの視点をを用いてアセスメントを行い、生活環境を含めた人物像を把握することができる。 ② 基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立の視点や安全・安心の視点から根拠に基づいた介護が実践できる。 ③ 利用者の自立した生活を支援するため、利用者の心身の状況に合わせた介護技術ができる。および、福祉用具を選択・活用することができる。 ④ 適切な介護技術や福祉用具を用いて、高齢者および障害者を安全に支援することができる。 ⑤ 自立に向けた介護、または終末期の経過に沿った支援とチームケア・チームアプローチについて、介護福祉士の役割が理解できる理解できる。					
指導計画	回	形態	内 容			
	31	講義・演習	⑥第3章 自立に向けた移動の介護	生活支援技術の練習②		テキスト6 p87～191
	32	講義・演習	⑦第1章 自立に向けた身じたくの介	生活支援技術の練習①		テキスト7 p6～71
	33	講義・演習	護	生活支援技術の練習②		
	34	講義・演習	⑦第2章	生活支援技術の練習①		テキスト7
	35	講義・演習	自立に向けた食事の介護	生活支援技術の練習②		p74～107
	36	講義・演習	⑦第3章	生活支援技術の練習①		テキスト7
	37	講義・演習	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	生活支援技術の練習②		p104～156
	38	講義・演習	⑦第4章	生活支援技術の練習①		テキスト7
	39	講義・演習	自立に向けた排泄の介護	生活支援技術の練習②		p104～214
	40	講義・演習	移動の介護	実技試験A		
	41	講義・演習	身じたくの介護	実技試験B		
	42	講義・演習	食事の介護	実技試験C		
	43	講義・演習	(入浴・)清潔保持の介護	実技試験D		
	44	講義・演習	排泄の介護	実技試験E		
45	講義・演習	生活支援技術Ⅱ 全体の振り返り(2段階実習に向けての最終確認)				テキスト6 テキスト7
	半期ごとに評価する場合	原則、筆記試験の実施 筆記試験(有)・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等	新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ ⇒⑥ 新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ ⇒⑦					
評価方法	全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する(試験監督はWAD職員)。 ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。学生便覧より 筆記試験：80点(100点満点の筆記試験を実施。得点を80%に換算)、態度点：10点、出席点：10点					

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

# 2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科 目 名	介護過程 1	学 科 名	介護福祉学科	講 師 名	林 浩文
時 間 数	30時間			実 務 経 験 の 有 無	生活支援員で社会福祉施設等で実務経験あり
学 年 ・ 学 期 配 当	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">1 年次</span>	2 年次		<span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">前 期</span>	後 期 通 期
目 的 ・ ね ら い	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養い、実践することができる。				
授 業 全 体 の 内 容 の 概 要	介護過程の意義、目的・目標について概説する。 介護過程における情報収集とアセスメント、課題、計画、評価について概説し、実践する。				
授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 ( 到 達 目 標 )	1、介護過程の意義、目的・目標を理解し、それを説明することができる。 2、情報収集、アセスメントを行い、目標や課題を見出すとともに、それを計画にすることができる。				
指 導 計 画	回	形 態	内 容		
	1	講 義	授業ガイダンス（本講義の目的、内容等説明）		
	2	講 義	介護過程とは ～介護過程とは～①		
	3	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程とは～②		
	4	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程とは～③		
	5	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程とは～④		
	6	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程とは～⑤		
	7	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程とは～⑥		
	8	講 義	介護過程とは ～介護過程における事例検討・事例研究の必要性～①		
	9	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程における事例検討・事例研究の必要性～②		
	10	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程における事例検討・事例研究の必要性～③		
	11	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程における事例検討・事例研究の必要性～④		
	12	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程における事例検討・事例研究の必要性～⑤		
	13	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程における事例検討・事例研究の必要性～⑥		
	14	講 義 ・ 演 習	介護過程とは ～介護過程における事例検討・事例研究の必要性～⑦		
	15	講 義	介護過程 1 総まとめ		
			原則、筆記試験の実施 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 0 2px;">有</span> ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。		
テ キ ス ト ・ 参 考 図 書 等	①「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規				
評 価 方 法	出席状況、参加態度（10%）、レポート課題等（10%）、試験（80%）を総合的に評価する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

# 2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	介護総合演習 1	学科名	介護福祉学科	講師名	竹川 加奈恵
時間数	30時間			実務経験の有無	介護福祉士として介護福祉施設介護事業所等で実務経験あり
学年・学期配当	1年次	2年次	前期	後期	通期
目的・ねらい	1. 実習の意義と重要性について理解できる。 2. 実習を通じて学内で学んだ知識を具体的に理解できる。 3. 介護福祉士としての自覚・専門職として求められる資質や対象者の理解を通し、自己に求められる課題を把握することができ、実践することができる。				
授業全体の内容の概要	各実習の段階に合わせて実習に向けての準備及び振り返りができるように、マナー、礼儀等社会人としての自覚を促す内容を教授する。合わせて実習記録の説明及び実習に関連し必要な内容を教授し、介護福祉の専門職育成を目指す。				
授業修了時の達成課題(到達目標)	介護実習の意義と目的、介護実習の進め方、介護実習の現場や現状、利用者の理解、実習時の心構え、留意事項について理解できる。				
指導計画	回	形態	内 容		
	1	講義・演習	科目オリエンテーション		
	2	講義	1段階実習（前半）に向けて ～1段階実習の意義・目的など～		
	3	講義・演習	1段階実習（前半）に向けて ～自己紹介表・誓約書等の作成～		
	4	講義・演習	1段階実習（前半）に向けて ～実習施設の調査～		
	5	講義・演習	1段階実習（前半）に向けて ～生活支援技術の振り返り～		
	6	講義・演習	1段階実習（後半）に向けて ～1段階実習の意義・目的など～		
	7	講義・演習	1段階実習（後半）に向けて ～自己紹介表・誓約書等の作成～		
	8	講義・演習	1段階実習（後半）に向けて ～実習施設の調査～		
	9	講義・演習	1段階実習（後半）に向けて ～生活支援技術の振り返り～		
	10	講義・演習	1段階実習報告会（報告書作成・発表準備）①		
	11	講義・演習	1段階実習報告会（報告書作成・発表準備）②		
	12	講義・演習	1段階実習報告会（報告書作成・発表準備）③		
	13	講義・演習	1段階実習報告会（発表）①		
	14	講義・演習	1段階実習報告会（発表）②		
	15	講義	介護総合演習 1 総まとめ		
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無		
テキスト・参考図書等	①「新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 ②「介護実習実施要綱 2023年度版」 学校法人ひらた学園 広島国際医療福祉専門学校 介護福祉学科				
評価方法	出席状況、参加態度（10%）、実習評価（70%）、実習報告（20%）を総合的に評価する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

# 2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科 目 名	発達と老化		学 科 名	介護福祉学科		講 師 名	平野 雅子		
時 間 数	30 時間					実 務 経 験 の 有 無	看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり		
学 年 ・ 学 期 配 当	1年次		2年次		前 期	後 期		通 期	
目 的 ・ ね ら い	人間の成長と発達の過程における、身体的、心理的、社会的変化や老化が生活に及ぼす影響を理解する。								
授 業 全 体 の 内 容 の 概 要	人が生まれてから死にいたるまでのそれぞれの発達段階における特徴や発達課題、高齢者の身体的特徴、心理的な特徴について学ぶ。								
授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 ( 到 達 目 標 )	発達について理解できる。身体について理解し、老化により生じる身体的な変化や疾患について理解できる。								
指 導 計 画	回	形 態	内 容						場 所
	1	講 義	オリエンテーション 成長と発達の違い (発達理論)						教 室
	2	講 義	遺伝的要因と環境的要因の影響に関する考え方						教 室
	3	講 義	発達段階と発達課題						教 室
	4	講 義	身体的機能の成長と発達 (身体的な成長・発達)						教 室
	5	講 義	心理的機能の発達 (ピアジェの認知発達理論)						教 室
	6	講 義	社会的機能の発達 (各発達段階での社会性の発達)						教 室
	7	講 義	ふりかえり						教 室
	8	講 義	老年期の特徴と発達課題 (老年期の定義)						教 室
	9	講 義	老年期をめぐる今日的課題						教 室
	10	講 義	老化にともなうところとからだの変化と生活 (老化に伴う 身体的変化と生活への影響)						教 室
	11	講 義	老化に伴う身体的な変化と生活への影響 (身体的機能の低下と日常生活への影響)						教 室
	12	講 義	老化に伴う身体的な変化と生活への影響 (血液・循環器系の機能の変化と生活への影響)						教 室
	13	講 義	老化に伴う心理的な変化と生活への影響 (認知機能の変化)						教 室
	14	講 義	老化に伴う心理的な変化と生活への影響 (老化にともなう社会的な変化と生活への影響)						教 室
	15	講 義	ふりかえり						教 室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容 及び評価ポイントなどの提出を必須とする。						
テ キ ス ト ・ 参 考 図 書 等	中央法規出版介護福祉士養成講座 発達と老化								
評 価 方 法	全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する(試験監督はIWAD職員)。ただし科目 によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。筆記試験評価を 80%とし、授業態度・出席率を20%で評価する。								

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

# 2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	発達と老化		学科名	介護福祉学科	講師名	平野 雅子
時間数	30 時間				実務経験の有無	看護師として病院介護福祉施設訪問看護ステーション等で実務経験あり
学年・学期配当	1年次	2年次		前期	後期	通期
目的・ねらい	1年次の学びを前提に、老化に伴う身体的・心理的・社会的変化が生活に及ぼす影響や高齢者の特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎知識を学習する。					
授業全体の内容の概要	老化に伴う機能低下が日常生活に及ぼす影響や高齢者に多い疾病について理解し、生活支援の根拠となるようにする。					
授業修了時の達成課題(到達目標)	老年期、高齢者の特徴や老化に伴うさまざまな変化や及ぼす影響を知る。生活を支援をするための基礎的な知識が理解できる。					
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	ふりかえり ( 発達から老化 ) 老化に伴う心理的变化と生活への影響 ( 認知機能 )			教室
	2	講義	老化にともなう心理的变化と生活への影響 ( 知的機能の変化 )			教室
	3	講義	ふりかえり			教室
	4	講義	老化にともなう社会的変化と生活への影響 ( 少子高齢化の問題 )			教室
	5	講義	老化にともなう心理的变化と生活への影響 ( 高齢者の就労状況 )			教室
	6	講義	高齢者と健康 ( 平均寿命 と 健康寿命 )			教室
	7	講義	( 高齢者の症状・疾患の特徴 )			教室
	8	講義	生活上の留意点 ( 骨格系 ・筋系 )			教室
	9	講義	( 変形性膝関節症 )			教室
	10	講義	ふりかえり			教室
	11	講義	( 脳 ・神経系 )			教室
	12	講義	( 循環器系 高血圧症 )			教室
	13	講義	( 消化器系 )			教室
	14	講義	( 悪性新生物 )			教室
	15	講義	ふりかえり			教室
	試験	原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有) ・ 無し しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等	中央法規出版介護福祉士養成講座 発達と老化					
評価方法	全講義終了後に、別日を設けて原則筆記試験を実施する(試験監督はIWAD職員)。ただし科目によっては、レポートや実技試験で、筆記試験の代わりにすることができる。筆記試験評価を80%とし、授業態度・出席率を20%で評価する。					

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)